

「大江中学校区 再編活性化 意見聴取会」 議事録（要点筆記）

日時：令和7年5月27日（火）19:00～20:20

場所：南小学校 体育館

出席者：

【地域住民・保護者・学校関係者】51人

【教育委員会】教育長 中田雅喜

事務局長 若山幸則

事務局次長 熊野佳幸

教育総務課長 西浦有一

学校支援課長 脇葉敦

給食管理課長 瀬古英司

教育総務課 学校活性化推進室長 北畠和幸

学校支援課 教育課程係長 宇田雅俊

教育総務課 学校活性化推進室主任 地主博一

学校マネジメントコーディネーター 田中伸之

【こども局】局長 西浦美奈子

こども未来課長 加藤知孝

こども未来課 課長補佐 渡邊匡紀

こども未来課 施設整備担当主幹 秋田桃子

こども未来課 栄養担当主幹 京谷幸穂

記録：地主

**挨拶：教育長**

雨が降る中お集まりいただき、心より感謝申し上げます。

学校の再編活性化は、本市にとって大きな課題です。そのきっかけとなったのが、この大江中学校区で大江中学校に進学する生徒がゼロになったことです。それから約10年、地域の方々が、子どもたちの学びをどうすればいいのか、地域にとって学校というものはどういうものであるのか、保幼小中が1つとなって子どもの学びを作っていくのはどういう形がいいのか、議論をしていただきました。

全国的に見ても貴重な地域であり、「未来ポック」のように子どもたちの学びを支援する仕組みも作っていただきました。

その中で教育委員会といたしましては、例外なき再編活性化の議論を進めてまいりました。

しかし、地域と一体となって、学校が子どもたちの学びを作ってきたことは非常に重要だと考えており、ご尽力いただいた地域の方々、教職員、子どもたちが、一生懸命頑張っていたいただいたことには心より敬意を表したいと思います。

本日は忌憚ないご意見をいただき、これまでの議論をさらに進めていただくための一つの礎となれば幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 職員自己紹介

### 資料説明：学校長（大江中学校）

資料『15の春プロジェクト』

・「15の春プロジェクト」に至る経緯として、平成29年度に大江中学校に入学する予定の生徒が、他校を選択し、第1学年の生徒がいないという状況から始まっている。

・これを受けて、地域では、平成29年に「松阪市立大江中学校の将来を考える協議会」、平成30年に「大江中学校区の子どもたちの将来を考える会」が発足。これにより地域、家庭、学校が一体となり、魅力ある学校づくりに向けた取り組みが進められることになった。

・地域、家庭、園、学校が連携を図り、南小学校にみなみこども園を設置し、同一地域内でこども園、小学校、中学校の連携を図ることで、子どもの学びと育ちを中心に置いた取り組みを推進する松阪モデルを構築することになった。

・「愛する郷土に学び、未来を切り拓く子の育成」を目標とし、小さな校区の大きな挑戦として、学校、園、地域、家庭が一緒になって子どもたちを育てようというスローガンのもと、これまでもいくつかの取り組みを行ってきた。

#### ・「探究的な学習」

就学前の遊びを通じた学びから南プロジェクト、大江プロジェクトへと、連続した探究的な学習を行ってきた。地域からの教育応援基金「未来ポッケ」を、この探究的な学習を行う資金とさせていただいている。

#### ・「英語教育の充実」

こども園、小学校、中学校を一貫した英語教育の推進。中学校教員がこども園や小学校に赴き、専門性の高い指導を行う。教育応援基金「未来ポッケ」をもとに、英語検定や、英検ジュニアの受検等、言語能力の育成への取り組みを行っている。

#### ・「特色ある教育課程の編成」

教科横断的で校区の特色を生かした学年・校種を超えた特色ある教育課程の編成。大江プロジェクト等では、このような特色ある教育課程の編成で行っている。

#### ・「広域的に開かれた学校づくり」

小学校特認校制度を導入し、それぞれの子どもたちが抱える課題にしっかり寄り添うことができる学校、子どもたちが自己肯定感を高め、自分らしくいられる学校づくりをめざす。

#### ・「異校種間交流」「異学年交流」

小1プロブレムや、中1ギャップの解消をめざす。

#### ・「小学校6年生からの教科担任制」

中学校教員による専門性の高い専科指導を行い、学力の知的側面の向上に取り組む。

#### ・「相互乗り入れ指導」

小学校中学年から特定の専科指導を行うため、中学校教員が小学校へ赴き、指導するとともに、小学校教員が中学校へ赴き、指導を行い、相互の学力における知的側面の向上にも取り組んでいる。

#### ・「飯南高校との連携」

飯南高校の地域課題解決型の探究学習を中学生が見学したり、一緒に活動したりするなどして、探究

的な学習の充実を図っていく。

・「教科横断的な学習強化」

横断的な課題を設定し、各教科で学んだことを統合的に働かせながら展開する学習に取り組み、今後子どもたちに求められる資質・能力を育成していく。

・「食育」

地産地消による安全・安心な給食を提供するとともに、子どもたちが食文化に興味を持ち、郷土愛を育む食育の充実を図る。学校農園の充実し、子どもたちが地域の食文化や産業、自然環境などへの理解を深めていく。

・「健康教育」

小学校6年生から柔軟な部活動を行い、より一層運動や文化活動に親しむ態度を育成し、心身の発達を促す。

**資料説明：学校長（南小学校）**

南小学校のこれまでの取り組みを紹介

・「相互乗り入れ授業」

中学年高学年を中心として、理科、英語、体育に、より専門的な知識を持った中学校の先生が来て授業をしている。中学校入学後も、その中学校の授業ハスムーズに移行していくことができている。

・「小中交流会」

年に3回、小学生が中学校の授業を見たり、一緒に授業をしたり、クラブ活動に参加したりしている。先日の運動会でも、小学生と中学生と一緒に競技をしたり、応援したりする姿が見られた。小学生、中学生、地域と一緒に運動会を作っているのは大江中学校区ならでは。

・「探究的な学び「南・大江プロジェクト」

6年生は年間25時間ほど中学校へ行き、中学生とともに探究学習をしている。学びの成果を小中合同学習会で保護者の方、地域の方にも伝え、新たな学びへとつなげている。中学生の発表に小学校1、2年生が鋭い質問をすることもあり、校区全体での協働的な学びとなっている。

・「英語」

中学校の先生による指導。地域の教育応援基金「未来ポッケ」より毎年補助を受けて、英検や英検ジュニアを受検。昨年は、5、6年生7人が中学生と一緒に受検した。

・「園小の連携」

昨年はこども園の人形劇に1、2年生と一緒に参加。終了後、園で一緒に遊ぶという姿もあった。昔の遊びや焼き芋会に園児を招待。入学前に、1、2年生と一緒に学校探検を実施。生活科の学習の先取りのような活動を経験することで、入学後の小学校の学習ハスムーズに入っていくことができた。

これからの取組

・「園小中連携」

こども園が小学校の施設内へ移転することにより、日常的にこども園との交流ができるようになる。これまでの小中、園小の連携を園小中連携として、さらに発展させ、保護者、地域の皆様とともに、きめ細やかな特色ある教育活動を進めていきたい。

### 資料説明：学校長（大江中学校）

大江中学校の取り組みを紹介

#### ・探究学習「大江プロジェクト」

これまでのチームで活動する取り組みから、さらに一人ひとりが課題を決めて、探究を進めていくという方向を考えている。今現在、子どもたちが、このテーマを考えているところ。

#### ・英語コミュニケーション力向上

英語の授業を普通の週4時間にプラスして、毎日10分ずつ、週5日で行うモジュールと呼ばれる授業を検討中。子どもたちが学ぶ英語の時間が、年間140時間から175時間へ拡大。

英語検定の積極的な受検の推進と、聞く・話す・書く・読むの4技能をはかるGTECの受検。  
異文化の方の交流。

「15の春プロジェクト」で期待できる効果

- ・家庭・地域の一体的な支援をいただいている。引き続き、ご支援いただければと思っている。
- ・入学時の小1プロブレムや中1ギャップへの対応ができています。
- ・配慮が必要な子どもに対しても、園小中それぞれの引き継ぎにより、連携した対応ができています。
- ・系統的な取り組みの推進。1小1中のよさが生かしている。例えば英語では、いくつかの小学校が集まっている中学校では、その進捗について4月当初悩むところだが、小学校に英語の先生が行っていること、1小1中の強みからそのまま中学校でも調整することなく、英語の授業等を進めることができる。
- ・「大江プロジェクト」「南プロジェクト」を通じて地域の人と触れ合うことにより、自己有用感や自己肯定感が育まれてきた。子どもたちは、この地域の人と関わることによって、これから地域を支える意識がしっかり芽生え始めてきている。
- ・教職員会の情報共有や連携。園小中の中で盛んに行われている。
- ・園児・児童・生徒、教職員からも、地域からも相互理解が進んでいる。

今後も大江中学校区は、地域とともにある学校づくりを進めていきたい。

### 資料説明：学校活性化推進室長

資料『松阪市立大江中学校区 再編活性化に関わる意見聴取会』

（4ページ）

・全国的に児童生徒数が減少していることから、平成27年1月に「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する手引」（文部科学省）が策定された。

・松阪市教育委員会では、令和2年度に検討委員会を立ち上げ、外部の委員による検討を重ね、令和5年3月に「松阪市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針」を策定した。

（2・3ページ）

・松阪市では、4人グループ5つで議論を深められるなどの理由から、「最低限確保したい学校規模」を小学校で6学級以上、中学校で3学級以上、1学級20人程度とした。

・南小学校は現在複式学級があり、大江中学校は現在20人未満単学級になっていることから、令和5年度から大江中学校区全体で検討を開始している。

(4ページ)

- ・想定される方策としては、「大江中学校、南小学校とともに隣接校との統合などによる再編」または「大江中学校、南小学校ともにその他の方策を用いて再編を見送る」という2択だった。
- ・令和5年度は、学校との関わりが深い方々から意見交換を開始した。

(6ページ)

- ・大江中学校区で進める教育活動として、基本理念『愛する郷土に学び 未来を切り拓く子の育成』を掲げ、4つの取り組みを進めていくと表明いただいている。
- ・先日、教育委員会に対しても学校運営協議会の名前で、これらの取り組みに対する支援・協力の要請があった。
- ・これらの経過、皆様のご意見等から、再編活性化の方向性の現段階での案として、大江中学校、南小学校の再編を当分の間見送り、今後の児童生徒数、地域、学校の取り組み状況を注視させていただきたい。
- ・小規模特認校制度導入の要望、提案が学校運営協議会の皆様からあったことを踏まえて、教育委員会としても、大江中学校区の特色ある学校運営として小規模特認校制度を導入し、周知、PRしていく。
- ・ただし、学校規模的に再編活性化の対象校から外れるわけではないため、「今後の再編活性化の検討を再開する際には、児童生徒数や地域と学校の活性化の状況も踏まえた上で、中学校区全体で一体的に検討する」という文言を付け加えたことは了承いただきたい。

校区の皆様を中心にしっかりご議論いただいた上で、再編活性化の方向性の最終案になっております。本日は、「子どもたちのより良い教育環境の実現」の観点から、皆様のご意見をお聴かせください。

#### 資料説明：こども未来課長

みなみこども園について、南小学校を改築し、新しいみなみこども園を開設する。

みなみこども園の移転工事は、小学校の改修部分も含めた一体的な工事として、こども未来課が担当する。

今年2月に学校運営協議会の代表の方々、大江中学校、南小学校、みなみこども園の保護者の代表の方々に対し、予算化された旨ご説明し、その後3月に南小学校、みなみこども園の保護者の方々及び地域の皆様方に意見聴取会を設けさせていただいた。その中でいただいたご意見を反映させながら、現在は工事の設計を進めている段階。

(校舎改修内容)

資料『(南小) 教室配置図』(意見聴取会終了後に回収)

- ・図面の上段に書いてあるものが現在の小学校の間取り、下段の方の図面が改修後の間取り。
- ・図面の中の色つき部分が今回の改修工事の場所。
- ・新こども園の規模は面積が約500平米、認可定員が65人、令和9年4月1日の開園を予定。
- ・図面のピンク色の部分がこども園になる部分、青色の部分が、こども園が入ることに伴って小学校の移転工事を行う箇所。
- ・こども園については、保育室として、0歳、1歳児が使用する乳児室、ほふく室と、2歳児から5歳

児までが使用する5つの保育室のほか、遊戯室、職員室、給食室がある。

- ・園児と保護者の皆さんは来客用・職員の玄関の前を通過して、各保育室の前にある入口より登園。
- ・給食室については、国の基準により、保育所部分については、自園調理での給食提供が原則のため、現在の小学校の給食室を改修する。小学校の給食は、給食センターからの配送で対応。
- ・給食センターから配送された給食を給食室の隣にある配膳室で整え、リフトを使用し、各教室まで運ぶという段取りになっている。
- ・緊急時の動線について、こども園側の東側にある階段は、緊急時は非常用の階段として利用。普段は安全性の観点からこども園側からは開かないようになっているが、緊急時には、2階からおりてきた小学校側から開くようになっており、西側階段だけではなく、東側の階段も避難経路として使用することができる。

#### (駐車場)

資料『駐車場整備について』

- ・3月の意見聴取会でいただいたご意見も踏まえ、再度見直した。
- ・当初は、国道沿いの運動場に駐車場を整備する予定だったが、雨天時の登降園や、小学校の体育の授業への影響など、様々なご意見をいただき、図面左側の赤の部分に整備することに修正。
- ・現在、玄関前にある枯山水の箇所、奥の庭木が植えてある箇所、校舎の西側に数台設けてある駐車場についても整備し、小学校とこども園用の駐車場とする案となっている。

#### 資料説明：教育総務課長

資料『(南小) 教室配置図』(意見聴取会終了後に回収)

##### (1階)

- ・現在の保健室に校長室、放送室が入る。
- ・図書室を職員室に変更。
- ・資料室を保健室に、理科準備室はトイレになる。
- ・理科準備室は、理科室内の準備室というブルーの部分に入る。

##### (2階)

- ・普通教室(生活室)を会議室及び更衣室に変更。

##### (3階)

- ・図工室を図書室に変更。
- ・パソコン室(多目的室)を図工室に変更。

今回の変更で2階の生活室、3階の多目的室はなくなりますが、他の部屋で代用することで児童、学校に必要な学習環境及び機能を損なうことがないような整備が可能です。

#### 資料説明：給食管理課長

- ・南小学校の給食室をみなみこども園の給食室として使用することから、南小学校の給食調理及び配送については、学校給食センターによる提供に変更する。

- ・現在、大江中学校は学校給食センターベルランチが調理・配送を行っている。ベルランチは幼稚園と旧市内の中学校の給食調理を行う施設として稼働していることから、ベルランチにおいて現状の運用に加え、調理工程の異なる小学校の給食を作ることができない。
- ・配送距離、時間も短い飯南学校給食センターから給食調理及び配送を行う。
- ・令和8年7月までは現状通り、今のところで給食調理し、夏休み明けの令和8年9月からセンターからの調理、配送を開始する。
- ・この変更に伴う給食時間等の変更はない。

#### 資料説明：こども未来課長

##### 資料『今後のスケジュール』

- ・本年10月ごろまでに実施設計を完成、令和8年1月ごろには入札発注を行い、2月上旬に工事請負業者との契約。2月中旬に仮囲い、安全措置などの準備工に入る予定。
- ・1月頃を目途に改修予定の3階図工室、パソコン室、2階普通教室の荷物等の撤去をする。
- ・2月下旬ごろから工事に入る。3階のパソコン室、図工室、2階の普通教室から進める。
- ・その工事が終わり次第、1階の荷物を移動させ、1階部分の図書室、保健室、資料室等の工事を順に行う。
- ・7月中旬頃には小学校部分の工事を完成させる予定。夏休みに新しい職員室への引っ越し作業を行い、夏休み明けからは新しい配置でスタートできる予定。
- ・夏休みに大きな音の出る躯体工事を実施。配膳室の工事を行う。
- ・9月からはこども園部分の工事に入る。令和9年1月には完成し、その後、こども園の引っ越し作業を行い、令和9年4月より開園という予定で進めていく。
- ・これは現在の予定になるので、今後の諸事情によっては時期が前後したり、順序が変更になる場合もあるかもしれない。

#### 質疑応答

##### 参加者

最初の油谷校長先生の説明について、なぜこういう取り組みが始まったかということ、少し皆さんにもご理解いただきたいので発言させていただく。

平成29年に大江中学校に入学する子どもがゼロになった話について、実はその前年度に学校アンケートをとられた。学校アンケートの中で、「統合する場合どの中学校がよろしいですか」という設問があった。例えば、飯南中学とか勢和中学とか、具体的な部分があった。

その質問に端を発して、入学する子どもたちが「野球をしたい」等で飯南中や勢和中、中部中に行かれ、大江中は0になった。

「これは大変なことだ」と、地域で考える会ができた。教育委員会にも知恵を借りて、小中連携が始まり、6年目になる。

確かに子どもが随分減ってきている。地形的なことも考えながら、やはり子どもたちが住んでいる地域で、学んだり勉強することは非常に大事なことだと思い、これまでの取り組みができてきた。教育委員会にも、新たにみなみこども園が南小学校に入るということで、これこそまさしく15年間をこの地

域で子どもたちが学んだり、保育されたりするという事なので、1つのモデルになるようにぜひ応援、支援をしていただきたい。

当然、地域、保護者の方もしっかりと頑張っていかなければならないと思っている。

#### 参加者

2点お伺いしたい。1点は要望で、下茅原地区から中学校に通う通学路が大変危険な箇所がある。以前から申し上げているが、なかなか実現しない。草刈りも県の方にやってもらうが、年に1度のため、安全が確保されているとは言いにくい状態が続いているので検討していただきたい。

2点目はこの学校再編のこと。下茅原地区も本当に人数が少ない。公民館は茅広江公民館があり、広瀬地区は射和小学校と多気中へ行く。

なぜ射和小学校の子を松阪市の中学校に進学させるため校区変更ができないものかと聞くと、自治会からの要望がないとできないという返答を受けた。私としては腑に落ちないところがある。

校区として下茅原地区は南小学校になるが、仮に射和小学校にということになった場合、多気中へ行くことも可能性としてあるのかお伺いしたい。

#### 教育長

まず1点目の子どもの通学路の安全、これについては万全を図っていきたいと思います。以前からご指摘いただいて改善がされてないということですので、早急に状況確認をいたします。

毎年、警察、学校、地域が通学路の安全を確認していただいて、県または市に要望いただいています。市も県道については県の方に要望して、特に市長からもはっきり言ってもらって、これは肌感覚ですが、松阪市内は他市よりも手厚くされていると思いますので、早急に確認をさせていただきます。

もう一つ、組合立の部分です。

この組合立というのは三重県でも1校だけです。多気と松阪の組合立が1校だけです。全国的に見ても少ないです。これは多気と射和の組合立よりもずっと遡ります。修教中学校時代からの話があって、射和地域に中学校がないということで、多気町が生活圏であるということから、要望があって組合立が成立しました。

昭和40年代だと思います。一時、組合立の解消ということも協議をされたようですが、その時も多気との組合立という地域の要望が強かったと聞いております。

再編活性化になったら、基本的に私どもの考えとしては、小学校区で中学校を決めていますので、もし射和小学校との再編活性化が進むようであれば、小学校区の住むところで、もし通う方法がないということであれば、例えばスクールバスであったり、いくつかの方法を検討していくべきだと思っています。

ただ現在、国は組合立の成立をなかなか認めてくれない、全国的にも組合立の解消に向けて動いてますので、今後広がることはないかなと思っています。

いずれにせよ子どもたちが安全に安心して学校へ通う方法については、私どももいくつか工夫をしながらしていますし、例えば通学路の安全確保やスクールバスや地域バスの活用、そのようなことも含めて今後も検討していきたいと考えています。

#### 参加者

工事の件について、市の入札制度で設計業者と施工業者は別というようなルールがあると思う。この

体育館は以前、設計業者が決まり設計された後、施工業者が入札者ゼロということで1年間体育館ができなかった。

体育館が壊された後、施工する業者が見つからなかったため、設計変更から始まって、1年以上体育館がなかったという経緯があった。

今回のこの工事もみなみこども園を安全な南小学校の1階入れていただくと、非常にありがたいし、それに伴って小学校の教室の変更という大きな工事が行われるが、昨今の建設業界の人員不足や資材の高騰、そのようなことも含めると、かなり厳しい状況ではないかと思う。ぜひとも不備のないように進めていただきたい。

## 教育長

ぜひ遺漏ないように入札に関わる準備段階から丁寧に説明していきますし、資材の高騰等にも対応できるように、積極的に市長部局と協議をしながら進めてまいります。

同じような轍は踏まないように、しっかりさせていただきます。

## 挨拶：教育長

感謝を言わせてください。

私が教育長になったときに、すべての学校を回りました。大江中学校のランチルームで話をさせてもらい、学校再編活性化の話が出ました。アンケートのとり方に教育委員会で大きな課題もありました。そんな中から、地域と一緒にここまでやってもらいました。

全国的に見ても、保幼小中が一貫ではなく、そこへ地域も入って、この4者が1つになるという事例は少ないと思います。

さらにここにまるごと相談室のような機能も入ってくると、やはり地域が学校の核になってくる。その核が、地域の活性化に結びついていく。市としてもいろんな手だてを打っていきます。

本当に地域の方々には心より御礼申し上げますとともに、こども園から、私は地域に根差した教育が、単に保育ではなくて、そこに学びがあって欲しいなと思います。遊びを通した学び、その学びの中から、将来を見据えていく思いや願い、そういったものを大切にしていきたいなと思いますし、そのために、学校はカリキュラムの変更であったり、地域へ出向いたり、交流を含めたりしていきます。

コロナ禍では、人と人とが繋がることを遮断してきました。信頼関係の上で成り立つのが教育なのに、その信頼を切ってくるような、人と人とが繋がらないような取り組みが進められてきました。そのあおりを受ける形で、子どもたちは不登校が増えたり、心の問題として顕著化してきていますが、そういった部分の解消も含めて、ここの取り組みが次へのステップになろうかと思っています。

今後、学校から、教育委員会から、地域から、いろんな課題が出てくるかと思いますが、その課題の1つひとつと一緒に協力できたらと思いますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

本日発表してもらったことをしっかりと支援していきますので、両学校長には、頑張っていていただきたいと思います。

## 連絡：学校活性化推進室長

本日、再編活性化の方向性についてご説明をさせていただきました。説明の中で最終案と申し上げます

した。その上で皆さんのご意見をちょうだいして最終決定をさせていただく流れになっております。

本日、特に反対のご意見も出てこなかったという認識のもとで、次の松阪市教育委員会定例会で議案として出させていただいた上で決定という手続きを踏ませていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。